

○ 補遺（跡見学園女子大学紀要第2集「神託時代」の設定とその特性）

一二頁下段、終から三行目「申すまでもない。」の次に、

これより先き、私は同昭和二六年六月二八日の「東海毎日新聞」の「宗教・文化」欄に「神話の自律性」と題して、

「私たちは神話時代ということばをよく使う。そして一般には神話を歴史と考えるいわゆるユーヘメリズムが強くゆきわたっているので、神話時代は神話に語られる時代と解釈されやすい。けれど、人間の歴史をどんなに年代的にさかのぼったところで神の歴史に到達しないという一事だけからでも、その解釈の誤りであることが反省されるであらう。

神話時代は神話の語られる時代である。歴史から見れば神話を語る時代である。この時代は神秘的ローマン主義がさかんで、アニミズム（精霊説）トーテミズム（族霊崇拜）タブー（禁忌）等々がいちじるしく、神話は規範的力を発揮し、神権政権一体の政治が——首長は神の子として神そのものとしての畏敬をはらわせ、はらわれる雰囲気うちに遂行される。この原始的な生活体制の維持律は文化の高さに反比例する。…」と書いたことある。

二三頁下段、一三行目「う。」の次に、

（大林太良氏「神話学入門」VII世界像の諸類型「ハイヌヴェレとプロメテウス」（一三五頁）参照）

○ 正誤

一〇頁上段終から八行 「第一期を」は「第一期は」の誤。

二四頁下段（註3）二行 「古墳時代の土器」は「弥生式土器」の誤。

（中 島 悦 次）